平成 31 年第 1 回岡崎市社会教育審議会会議録

日　　時　　平成 31 年２月 19 日（火）　午後２時 00 分～午後４時 00 分
会　　場　　市役所東庁舎６階 601 会議室
出席委員　　石　川　春　次　　（元岡崎市立中学校長）　　会長
　　野　田　光　宏　　（元岡崎市立中学校長）　　副会長
　　小　川　真奈美　　（岡崎市小中学校校長会）
　　浅　井　博　人　　（岡崎私立幼稚園協会会長）
　　水　野　　達　　（岡崎市学区社会教育委員長連絡協議会会長）
　　市　川　賀　三　　（岡崎市子ども会育成者連絡協議会会長）
　　平　川　賢　次　　（元公民館館長）
　　永　田　研　一　　（岡崎保護区保護司会副会長）
　　後　藤　尚　代　　（女性代表）
　　葉　山　栄　子　　（一般公募）
　　浅　岡　悦　子　　（一般公募）
欠席委員　　荻　野　善　一　　（岡崎市ＰＴＡ連絡協議会顧問）
事 務 局　　社会教育課長　小野、社会教育課副課長　柴田
　　社会教育課社会教育係　大村、鳥居、三浦社会教育指導員

議　　事　１　あいさつ
　　２　議題
　　（１）【審議　第４回】子どもをとりまく社会教育環境について

（１）【審議　第４回】子どもをとりまく社会教育環境について
・審議を行うにあたって、「地域での社会教育」「余暇の教育的活動について」「インターネットの利用」について説明を行った。各委員より下記のように発言があった。

指導員：［上地学区の学区社教の活動について説明］
上地は学区に神社がなく子どもたちが身近に秋祭り、夏祭りに接することがない。そのため、学校、学区でやろうかというところからスタートした活動が「学区親子夏祭り」である。最初は学校の教員と社会教育委員さんが若干関わっていたようだが、今ではいろいろな諸団体がいろいろなブースを出してやっている。８月末の当日はこれだけの人が上地にいたんだと思うくらい運動場に集まる。それを見ながら子どもたちは育つので、中学校でボランティアを募るとたくさんの子どもたちがボランティアとして活動してくれる。子どもたちにとって、このお祭りは地域の人とかかわっていく場面でもあるし、将来的にまた上地で何かの役に立

ちたいという声も聴かれる。
スポーツ少年団も上地学区の子だけで構成している。そのため学区社教から補助金が出る。すべて OB,OG が少年団の活動を決めているので、子どもも地域の方も保護者も一体感を持って試合に臨んだり、応援に行ったりしている。
防災訓練の時も中学生が出てきてお年寄りの家を一軒一軒回って、お年寄りを引き連れてくる地域もある。子どもたちが活躍しながら、お年寄り、学区の人たちと一緒に活動おり、子どもたちのためになることだと思っていた。

委　員：地域の民俗文化財を受け継ぐ保存会の方々が学校で「デンデンガッサリ」の所作を教えていただき、実際に山中八幡宮の中で練習した成果を子どもたちが演じる場を設けていただいている。総合学習の時間で行い５年目に入る。デンデンガッサリ自体は豊作を祈願するお祭りなので、コメ作りを体験しないとお祭りの意味が分からないのではないかという事で保存会の方々と一緒に機械を使わずに泥の中で子どもたちが大騒ぎしながら行っている。シロカキからスタートし農薬も使わずにもち米を作り、脱穀機を使い昔の用法でお米にし、餅つきを行う。お祭りがこのように続いてきたというところを保存会の方々に伝承してもらいながらやっている。

委　員：デンデンガッサリのような本当に伝統的に続けていかなくてはいけないようなものですら高齢化している。学区社会教育委員というのが戦後すぐ岡崎、豊橋、一宮と実験的に作られ、残っているのは岡崎と豊橋だけという事で、改めて考えてみると学区社会教育委員というのはいろんな組織がそこにいる。いい組織で大切にしていかなくてはいけないと思うが、なり手がどんどんいなくなる。

委　員：最近の子どもの事件、お年寄りの事件。地域とのつながりが大事ですが、事件が起きるのは孤立して親も地域と関りがない。関りを持っていただくといろんな方と会話もできるし地域とのかかわりもできる。学区社会教育委員会はいい組織ではないかなあと常々思う。問題は今言われた通り、人材不足、なかなか引き受けていただけない。１年か２年世の中のために働こうかという気持ちが薄れてきている。人材不足で大事なものがだんだん活動の範囲が狭くなるのは残念だと思う。学校と地域が連携しましょうといいことができてきたと思うが、学校も地域との関りを保護者の方に伝えていただきたい。

委　員：地域での社会教育ということで子ども会についてですが、なかなか役員をやってくれないのが現状。総代も同じ、来年の役員が決まらないので困っている。学区社会教育委員、子ども会等を地域の方が知らない。学区の行事に対しても関心がない。先ほど無縁化といわれましたが、隣はいい、自分さえできればそれでいいのだという感じが強い。子どもに対しても同じ、自分の子どもさえよければいいという感じが非常に強い。出てこない人をどうやって出て来させるか。考えていかなくてはいけないと思う。

委　員：地域に新しい町内ができた。30 代、40 代の方ばかりの若い世代の人達は新しい考え方、自分たちが苦労しなくてもいいような役員をするための意見を出され、ホームページやメールを使って連絡したり報告したり、回覧も回すがメディアを有効に使っている。今までずっと続けてきたことに新しい意見をいただいて参考にしている。変化があったことにこちらも目覚め、盛り立てていこうかなという気持ちになっている。

委　員：アピールが大事だという話を聞き、広報や回覧も目を通していたつもりだが、地域での活動に気が付かなかった。せっかくの活動を何らかの形でアピールしていく力をつけていかなくてはいけない。昔は学校の先生たちの力で何とかなる時代であったが、今は学校だけではどうにもならない時代になってきている。いろいろな専門の方たちがいろいろな形で関わっていかないと難しい。

委　員：学校から依頼があり、手工芸の講座の講師を務めた。５人の方にお手伝いいただき、事前に段取りし講座を行った。後でお礼のお手紙をいただき、それがまた、楽しくて「これが社会教育」と感じた。

委　員：私自身のことを言いますと、子どもの頃は、よく喧嘩をした。相手に傷を負わせるような事はしなかったが、けがをすると大変なことをしてしまったと終わった。今は子どもたちに遊びを通した経験がないから命を取るような喧嘩になる。大人もだが子どもも無縁社会になっている。

委　員：学区の青パトをやっているが、まず子どもがいない。親が外で遊べと言わないのか親同士の付き合いが薄くて子どもが疎外されているのか、その辺りは分からないが自分の子ども時代を考えると信じられない。これで子どもが大きくなっていった場合、友達関係がなく、一人になってしまうのではないかと思う。

委　員：職場体験をやったほうがいいのではないか。休日、休んでいる姿しか見ていないので、親が何をしているのか知らない。職場は大事なものだよ、仕事はやらなくてはいけないのだよ。と教えていかないといけないと思う。

委　員：学校側は職場体験を学習としてやっている。学習とつくと学校としては目的があって成果として収めたい。親の側から社会の側からするとそれは大事だよという意見になるが、学校側からそれを目標にしていることはまずない。

学校と社会教育と地域が結びつくのは共有できる目的がある場合である。地域と結びついた学校の中に、学力・学習状況調査があり、学力は学校、学習状況調査は家庭ないし地域と分かれている。学習状況があまりよくないと止むを得ないところもあるが、学力となると先生は何をやっているということになる。

お祭りのことを地域に開いて学校で実施するが、学校側が子どもたちに積極的に行う場合は「総合的な学習」「生活科」等学習の一貫として行っている。地域からすると行事を守っていくため、ひいては子どもの成長や学区の発展のためにと思いがあり合致する部分とそうでない部分がある。コミュニティの意識はある

が、学校を貸していると思っているところがあるので、隔たりがあるのではと思う。

委　員：学校が子どもたちの余暇を取ってしまっていたかなあと思う。部活を盛んに行っているが、働き方改革で少し考え直そうという事になっている。学校が担い過ぎていたことをこれからは学区の方から学んだりするのもいいのではと思う。

委　員：ネット社会、インターネットを理解した上でいかん、いかんだけでなく、だから、だめなのだと言えるようにしなくてはいけない時代である。心配も良さも分かったうえで使い方を考えていく。時代の転換期に来ているのでは。

委　員：電車でもみんなスマホを使っている。１歳くらいから「スマホ子守」で静かに育てる。人間性が崩れていくことにつながっていくのではないか。

委　員：今日、文部科学省から「小学校にもスマートフォンを持ち込み禁止の指針の見直し」をというニュースを聞いて大変な時代になってくると思った。私は３歳、４歳、５歳の視力検査をしている。この時期が非常に大切で、そこで視力が完成される。大学の附属の幼稚園にも協力していただき３年間視力検査をしている。問診の中に「スマホを使いますか？」という項目を入れているが３歳児で80パーセントくらいが使っている。眼科学会の先生たちは20ｃｍ離してくださいという指導をされているがなかなかそれが浸透していかない。

大学生もＳＮＳでトラブルが多く、個人が特定できる情報や知人に許可なく写真などを簡単にネット上に掲載してしまう。市の出前講座でどんどんやっていただき理解を深めてもらいたい。

委　員：スマホも５，６年経てば、また変わっている。びっくりしたのは未就学児がスマホをいじる。親がいじらせないでおけばいいだけなのだが。

委　員：私もスマホを持ってはいるが機能の10分の１くらいしか使ってはいない。幼児の父、母は年代的にスマホを使いこなしている。親がモラルを本当に理解し子どもに伝えないと子どもは楽しければ、いくらでもやる。親世代に理解し伝えてもらわないといけないのではないか。学校等で出前講座をし、モラルやルールを教えてくれるのはいいことだと思う。

委　員：子どもに、将来の夢を聞くとユーチューバーが上位となる。またＥスポーツも人気がある。子どもの中では結構、あこがれの職業になっている。来年、ＰＴＡの人を集めて情報モラル講座をやろうと思っている。なぜかというと、オンラインゲームを離れたところにいる子ども同士でやっていて、小学生が遅くまでゲームをしていたり、トラブルも発生している。やってはいけないと言いたいが、将来の夢がこれだと言われるとどうしようと思い困っている。

委　員：倫理観とかモラルは小さい頃から育てていかないといけないと思う。モラルのところは講座を通して小さい頃から培っていかないとと危機感を感じている。

委　員：こういうものの対処法というか特効薬はない。小さい時から倫理観、スマホの

使い方を親子で十分話し合って、当たり前のことを当たり前のように積み重ねてやっていくしか方法はない。

・次回審議会は６月下旬に開催予定